

斜面住宅地に対する巡回バス導入に関する研究

広島工業大学 正会員 大東 延幸
 広島工業大学大学院 学生会員 田中 晶生
 広島工業大学大学院 学生会員 渡辺 昂
 株式会社ヒロコン 正会員 今井 隼平

1. 研究背景

広島市では高度経済成長期にいくつかの新規住宅団地が作られたが、平地が少ない地形上の理由等で多くの山斜面に作られている。これらの住宅団地は、広島都心部への通勤手段に関しては、バス交通を主とする公共交通手段が整備されているが、日常の買い物に関しては、住宅団地内や周辺の小売店の利用に対しての公共交通手段は不十分である事が多く斜面である事も加わり自家用車の利用が多い。本研究では、広島市の中で典型的な斜面住宅地である、彩が丘住宅団地で、交通に関する意識などの調査を行った。ここでは分譲開始から 10~15 年が経ち、住宅団地内ではそろそろ高齢化が進んでいる。既に交通に関するライフスタイルが変化しており、自家用車に依存し続ける事が住宅団地の存続のために良いかどうか疑問である。

2. 調査手法

調査対象は、日常的な買い物や通院をしている方を対象とし、配布方法は、自治会を通して各街区、全丁目に配布・回収を行なった。調査概要は、表 - 1 に示す通りである。

表-1 調査概要

調査対象	彩が丘団地
調査の種類	アンケート調査
調査期間	平成 18 年 11 月~2 月上旬
配布枚数	1250 部(全世帯)
回収枚数	522 部
回収率	41.76%
調査内容	・調査対象者の属性 ・自動車免許、自家用車の保有状況 ・買物交通時の移動実態 ・現公共交通に関する住民の意識 ・巡回バス導入に関する住民の意識

彩が丘住宅団地の地図を図 1 に示す。この住宅団地は、調査対象の住宅団地内のバス停の位置と、バス停

から道なりに 400m の範囲を図-2 に示す。彩が丘住宅団地では全宅地がバス停から道なりに水平距離で 400 m 以内に立地している。しかし、地形は、南西から北東にかけて下のような勾配となっており、実際の各住戸からバス停までの間は勾配の上り下りがある。

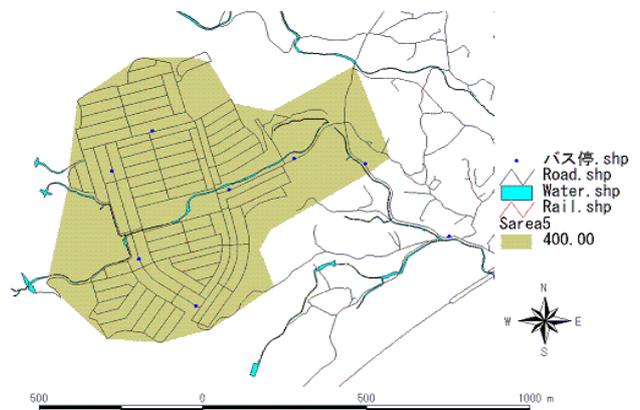


図-1 バス停から 400m の範囲

3. 調査結果

3.1 巡回バス導入に対する住民の意識

自由意見欄に記入された意見のうち、票数において上位となったものを、以下の表 - 2 に示す。この集計では、「運行時間及び頻度の見直し」の意見を筆頭に、バス交通の現状に不満をもつ意見が目立った。

表-2 アンケートの自由意見欄のまとめ

意見	票数
運行時間及び頻度の見直し	208
増便・新設して欲しい	185
巡回バスを導入して欲しい	108
老後(高齢化)の問題	74
バス代が高い	50
バス停までが遠い	36
アクセスが悪い	35
市内に向かうには便利	13
巡回バスは不必要	12
団地内で買い物できる場所がない	12

次に、「もし巡回バスを走らせるとしたら」という質問を行なったところ、図-2 のようにどちらの住宅団地でも「是非使ってみたい」、「便利であれば使ってみた

い」を合わせると、80%を超える回答が得られた。

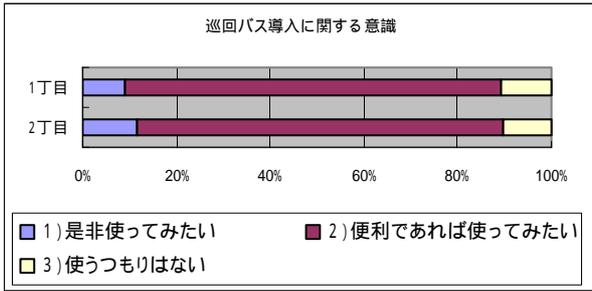


図-2 巡回バス導入に関する意識

住民はこれまでの調査結果から、マイカーに依存しつつも、便利な交通手段を望んでいることがわかった。また、隣接する他市の同じような住宅団地を巡回する、その市が運営するワンコインバスがあり、調査対象の住宅団地の自治会はこれらの事を良く知っている。

3.2 巡回バスに求めるサービスレベル

住民が希望する巡回バスのサービスレベルを求めるため、以下のような設問を行った。

「巡回バスの料金は、料金が均一料金の場合、いくらが妥当か？」という質問の結果を図-3 に、「巡回バスの運行頻度は、1時間に何本ぐらいが妥当か？」という質問の結果を図-4 に示す。

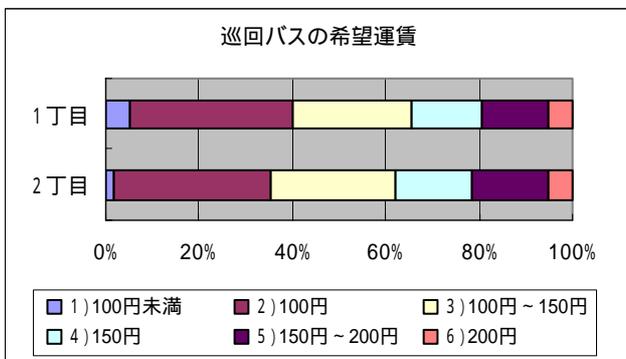


図-3 巡回バスの希望運賃（彩が丘住宅団地）

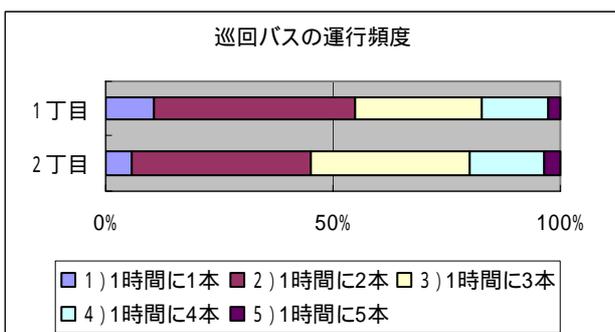


図-4 巡回バスの運行頻度（彩が丘住宅団地）

バス停までの距離を示す、「巡回バスのバス停までの距離は何分程度が妥当か？」という質問の結果を図-5 に示す。

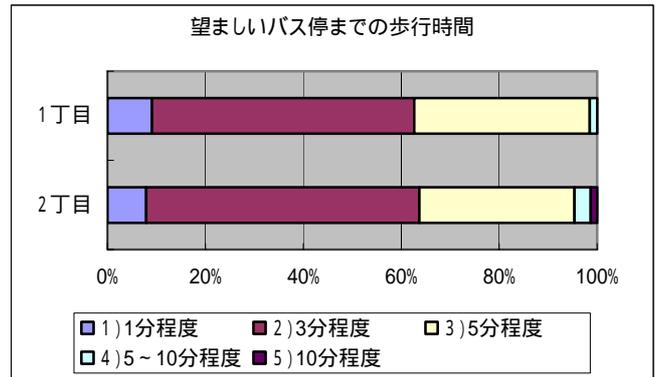


図-5 望ましいバス停までの歩行時間

4. まとめと今後の課題

彩が丘住宅団地は、日常的な買い物目的地である最寄の団地外商業施設まで、既存のバスでは 200 円から 300 円程度の運賃であり、ラッシュ時以外の日中の運行頻度もほぼ 1 時間に一本で利便性が高いとはいえない。彩が丘住宅団地は、前述のように全ての宅地がバス停から道なりに 400m以内であるが、これだけではバスのサービスレベルが高いとはとてもいえず、買い物交通に関してマイカーの利用が高い。

しかしながら、住民は共に巡回バスを導入することについては賛成の意識が高い。更に求めるサービスレベルについても、運賃は現状のバスの運賃より安い 100 円、もしくは 100 円～150 円を、バス停は歩いて 5 分以内で、1 時間に 2 から 3 本の頻度での運行を望んでいる事が明らかとなった。

本研究では、住民の意向を明らかにできたが、巡回バス導入計画案等の具体的な検討には至っていない。今後はバス事業者などを含めた話し合いや買い物場所へのルート決定のため、小売店側とも話し合いが必要とされる。今回の研究にあたって、調査にご協力いただいた、彩が丘住宅団地の自治会の皆様方と住民の皆様方に感謝いたします。

【参考文献】

- 1) 中川大：自治体が主体となったバス事業の成果と課題に関する研究，第 33 回土木計画学研究発表会・講演集 2005
- 2) 大東，今井，田中：斜面住宅団地の住民の交通に関する意識の調査研究，第 35 回土木計画学研究発表会・講演集 2007